
一般財団法人杉山産業化学研究所概要

当研究所は、昭和11年、豊年製油株式会社(㈱J-オイルミルズの前身)の社長であった故杉山金太郎氏により、畑の肉といわれる大豆の研究を行うことを主たる目的として、井の頭恩賜公園に隣接した武蔵野の地に、豊年製油株式会社の研究所として創設されました。その後、昭和17年に、有為な人材の養成と産業化学の発達に貢献する目的で、学会、官界、実業界など各方面より選任された役員によって運営される公益法人(財団法人)組織の研究機関に改組され、財団法人杉山産業化学研究所となりました。以来、広く産業化学の研究を行ってわが国産業界の発展に貢献してきましたが、その間、昭和48年現在地に移転して研究施設・設備の更新と拡充をはかり、平成23年10月より一般財団法人となり、今日に至っております。

当研究所は、創立当初は食用油脂・たん白質の研究を中心とする食品分野の研究部門、および工業用接着剤の研究を中心とする工業分野の研究部門より成っておりましたが、その後、澱粉の研究部門を設け、さらに最近ではバイオテクノロジーやファインケミカル等の分野にも研究対象を広げ、基礎から応用・開発に至る広範な研究を行っております。また食品、接着剤関係の分析を中心とする分析センターも設置しており、各種の依頼分析試験にも応じております。近年、21世紀に向けて著しくその重要性が増大しつつあり、かつ多様化してきた食糧問題や住宅問題の中で、当研究所の果す使命はますます大きくなってきております。当研究所では可能な限り一般に門戸を開放し、受託研究・共同研究・依頼分析試験・技術指導・情報提供・公開講演会の開催・定期刊行物(杉山産業化学研究所年報、木材工業技術短信)の発行などを通じて、当研究所に果せられた社会的使命を全うすべく努力しています。